

●…………… 論文特集原稿募集 ……………●

——バイオメトリクス小特集

(和文論文誌 A) 論文募集——

バイオメトリクス小特集編集委員会

電子情報通信学会和文論文誌 A の小特集 (平成 26 年 12 月号) として、平成 25 年 12 月号に引き続き「バイオメトリクス」を企画しました。バイオメトリクスは、パターン認識の応用として研究開発がなされてきており、近年では、セキュリティへの応用を念頭に置いた技術開発が急激に進展しています。平成 25 年 11 月に第 3 回バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム (SBRA2013) (主催: バイオメトリクス時限研究専門委員会) が開催されます。本シンポジウムで発表された質の高い優秀な論文を中心として、センサ、アルゴリズム、実装、システム構築、サービスまで広範にわたる最新研究成果を集積し、最新の技術動向及び今後の技術開発の方向性を展望したいと考えています (本特集は、投稿論文を SBRA2013 発表論文に限定しません)。皆様の積極的な御投稿をお願い申し上げます。

1. 対象分野

以下のようなテーマの論文投稿を期待しておりますが、これらに限らず、広くバイオメトリクスに関する分野の論文の積極的な御投稿をお願い申し上げます。

- ・指紋、虹彩、顔、静脈、掌紋、耳介、歩容、ジェスチャ、署名、音声、マルチモーダルバイオメトリクスに関する認識・認証技術、及び、それらに関する画像信号処理・パターン認識技術
- ・テンプレート選択・更新、スマートカード実装、大規模認証、テンプレート保護、生体検知、システム設計
- ・サーベイラス、アクセスコントロール、エンターテインメント、決済などへの応用
- ・データベース、性能評価、プロトコル、ベンチマーク・標準化
- ・犯罪や災害時の個人同定

2. 論文の投稿規程及びフォーマット

通常の和文論文と同一とします。原則として、論文は刷り上がり 8 ページ程度、レターは標準 2 ページ最大 4 ページとします。4 ページを超過しているレター原稿は受理しませんので御注意下さい。詳細は「和文論文誌投稿のしおり」(http://www.ieice.org/jpn/shiori/ess_mokuji.html) を御覧下さい。また、<http://www.ieice.org/eng/ads.html> にあります二重投稿に関するポリシーを注意深くお読み下さい。なお、査読後の再提出期間が短縮される場合があることをあらかじめ御了承下さい。

3. 論文の投稿

Web による投稿のみ受け付けます。下記の投稿手順に従って下さい。

- (1) 電子情報通信学会 Web サイト https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx を使って投稿して下さい。ソサイエティ/特集では [特集 BA] バイオメトリクス小特集を選択して下さい。[一般 JA] 基礎・境界は選択しないで下さい。
- (2) 登録後に作成される投稿者チェックリスト・著作権譲渡書を投稿締切日までに学会事務局に送付して下さい。送付方法は、郵送、FAX、スキャンし PDF 化したもののメール添付、のいずれの手段でも構いません。これらの書類がな

いと査読が開始されません。

【送付先】

一般社団法人電子情報通信学会編集出版部論文課
〒105-0011 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内
FAX [03] 3433-6616, E-mail: wabun-a@ieice.org

4. 論文投稿締切日 平成 26 年 3 月 12 日 (水) 必着

投稿者チェックリスト・著作権譲渡書がこの期日までに学会事務局に届くようにして下さい。

5. 採否判定通知

著者には平成 26 年 8 月下旬までに採否判定結果を通知します。なお、論文採録の場合には、掲載別刷代をお支払い頂きます。

6. 問合せ先

伊藤康一 東北大学大学院情報科学研究科
〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-05
TEL [022] 795-7169, FAX [022] 263-9308
E-mail: ito@aoki.ecei.tohoku.ac.jp

※問合せはなるべく電子メールにてお願いします。

7. 小特集編集委員会

委員長 西垣正勝 (静岡大)
編集幹事 伊藤康一 (東北大)
編集委員 岩下友美 (九大), 大木哲史 (早大), 大塚 玲 (産総研), 高橋健太 (日立), 佐藤公則 (鹿児島大), 鷲見和彦 (青学大), 西内信之 (首都大東京), 横原 靖 (阪大), 村松大吾 (阪大), 山崎 恭 (北九州市大)

——アンテナ、伝搬、及び無線システムのための最新の測定及び設計技術小特集

(英文論文誌 B) 論文募集——

アンテナ、伝搬、及び無線システムのための最新の測定及び設計技術小特集編集委員会

近年、多くの無線技術の発展とともに、スマートフォンのような小形端末を用いた高速な無線通信が広く普及しており、無線端末自体の小形化やマルチバンド化、MIMO 等に対応したアンテナシステムの高機能化が進んでいます。この状況は、無線分野の技術者にとって、無線システムや機器の急激な複雑化や多様化に対応する必要があることを意味します。そのためには、アンテナ等のデバイスの小形化技術や新しい設計概念のみならず、より一層正確な測定や評価技術が重要となり、電波利用環境を常に良好に保つための多様な無線設備の導入につなげるのが重要となります。

そこで本小特集 (平成 26 年 10 月号掲載) においては、アンテナ、伝搬、及び無線システム技術分野における最近の測定技術、評価技術に関する論文を中心に募集します。更に新しい設計技術等に関する研究論文をも同時に募集し、双方の視点から最新の技術動向やニーズを把握できる機会を設け、このような要求に答えるための指針を得ることを目指します。企業や大学、そのほかの研究機関等多くの皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

1. 対象分野

アンテナ及び電波伝搬技術に関する以下の分野を対象とします。

- Antenna measurement techniques
- ・ Measurements of antenna parameters
- ・ Experimental models of propagation environment
- ・ Infinitesimal power measurements
- ・ Radiated power measurements

- SAR measurements
 - Other related topics
- Designs and systems
- Antenna design and systems
 - Human body communication
 - MIMO
 - Propagation
 - Wireless power transfer
 - Other related topics

2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。ページ数は、原則として刷り上がり8ページを標準とします。標準ページ数を超えると、掲載別刷代が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は Information for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_cs.html) を御参照下さい。査読後の再提出期間(通常は60日)を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

Webによる電子投稿のみ受け付けます。以下の手順で御投稿下さい。

手順1: https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx から登録を行って下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体(TeX/Word)、図、著者の写真、biographyも投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”でRecent Progress in Design and Measurement Techniques on Antennas, Propagation and Wireless Systemsを選択して下さい。[Regular-EB]を決して選択しないで下さい。

手順2: 登録時に生成される“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”と“Confirmation Sheet of Manuscript Registration”を、論文投稿締切日までに下記送付先へ電子メール添付、FAXのいずれかの方法でお送り下さい。これらの書類が期日までに届かない場合、投稿が取下げになることがあります。

4. 論文投稿締切日 平成26年2月3日(月)必着

5. 投稿書類送付先及び問合せ先

福迫 武

熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻

TEL [096] 342-3839, FAX [096] 342-3630

E-mail: ap_ac-eb-special2014@mail.ieice.org

6. 小特集編集委員会

委員長 宇野 亨(東京農工大)

幹事 福迫 武(熊本大), 本間尚樹(岩手大)

委員 石井 望(新潟大), 北 直樹(NTT), 紀平一成(三菱電機), 黒川 悟(産総研), 西山英輔(佐賀大), 藤元美俊(福井大), 山口 良(ソフトバンクモバイル), 山本 学(北大)

7. 付記

* 締切日を厳守して下さい。

* 招待論文を含む全ての採録論文については掲載別刷代(別刷50部含む)が必要となります。

* 投稿に際しては、著者のうち少なくとも1名は本学会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。 <http://www.ieice.org/jpn/nyukai/susume.html>

——新たな広がりを見せる衛星通信及び関連

宇宙技術特集(和文論文誌B)論文募集——

新たな広がりを見せる衛星通信及び 関連宇宙技術特集編集委員会

東日本大震災の際には、地上の通信インフラが大きな損傷を受け、緊急時の通信確保等に衛星通信が活躍したことは記憶に新しいですが、その後の総務省施策「耐災害性強化のための情報通信技術の研究開発」をはじめとする耐災害 ICT 技術の研究開発においても、衛星通信の役割が大きく期待されています。同時に、我が国における衛星通信事業においても衛星携帯電話等の新規サービス導入が活発化し、海洋域における安全保障や資源探査など、衛星通信の活用が期待される新たな分野が登場してきています。また、通信インフラのみならず、悪天候でも広域な地上観測ができる衛星からの合成開口レーダ観測や電波測位などの衛星電波応用技術も、耐災害技術の重要な分野です。このように衛星を用いた通信や電波応用の活用が大きく広がりがつつあり、これに呼応して研究開発も広がりを見せています。そこで、近年の衛星通信・電波応用分野の研究開発状況を広い視点で集約し、その方向性や広がりを俯瞰することは、今後の当該分野の研究開発においても有益であることから、本特集(2014年11月号)を企画致しました。

本特集では、衛星通信・放送技術・宇宙電波応用はもとより、それに関連する宇宙技術及び地上施設関連技術、更に我が国では新たに研究開発が始まった無人航空機システム(UAS)を対象とする通信及び関連技術も対象とします。幅広い皆様からの論文投稿を期待致します。

1. 対象分野

以下に関する要素技術、システム技術、アプリケーション・応用

- 衛星通信(固定衛星通信, モバイル衛星通信, 衛星間通信等)
- 衛星放送(CS/BS, モバイル衛星放送等)
- 観測衛星からのデータ伝送(地球観測衛星, 小形衛星, 深宇宙通信)
- 飛しょう体電波応用(電波測位, 合成開口レーダ)
- 衛星・地上融合通信システム(ATC/CGC等)
- 衛星センサネットワーク
- 無人航空機通信システム

2. 論文の執筆と取扱い

通常の一般論文と同一とし、論文は原則として刷り上がり8ページ以内とします。詳細は投稿のしおり http://www.ieice.org/jpn/shiori/cs_mokuji.html を御参照下さい。査読後の再提出期間が短縮される場合があることをあらかじめ御了承下さい。

3. 主なスケジュール

投稿締切: 2014年2月28日(金) 厳守

初回判定通知予定: 2014年4月下旬

最終判定通知予定: 2014年7月下旬

発行月: 2014年11月号

4. 投稿方法

(A) 電子投稿

https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx にアクセスし、投稿原稿のPDFファイルと編集用データを登録して下さい。登録後に作成される投稿者チェックリスト・著作権譲渡書を投稿締切日までに学会事務局に到着するように送付して下さい。

【注意】 登録時点で原稿のアップロードが困難な場合、「郵送に

よる投稿」を選択し、一旦登録を完了させて下さい。連絡先メールアドレスにメール (Notification of completion for Temporary Registration) が送信されますので、メール内に記載の URL から「仮登録情報の修正/削除、電子投稿 (原稿のアップロード) 画面」にアクセスして下さい。表示される画面から原稿のアップロードができますので、必ず投稿締切日までに原稿をアップロードして下さい。

(B) 郵送

https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx にアクセスし、投稿論文データを登録して下さい。投稿者チェックリスト、著作権譲渡書、投稿原稿、編集用データを保存したメディアを投稿締切日までに学会事務局に到着するように郵送して下さい。

郵送物送付先:

一般社団法人電子情報通信学会編集出版部論文課

〒105-0011 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館

5. 特集編集委員会

編集委員長 上羽正純 (室蘭工大)

編集幹事 福田盛介 (JAXA), 吉村直子 (NICT)

編集委員 石川博康 (日大), 大槻知明 (慶大), 大嶺裕幸 (三菱電機), 岡本英二 (名工大), 榎木勲四郎 (KDDI 研), 香取照臣 (日大), 亀井雅 (NHK), 鴨川健司 (NTT ドコモ), 小林弘一 (阪工大), 高瀬浩史 (日本工大), 豊嶋守生 (NICT), 西山大樹 (東北大), 山下史洋 (NTT)

——ネットワーク仮想化及びコンピューティングとネットワークの融合プラットフォーム

小特集 (英文論文誌 B) 論文募集——

ネットワーク仮想化及びコンピューティングとネットワークの融合プラットフォーム小特集編集委員会

インターネットを代表とする情報通信システムは、社会・経済活動を支える必要不可欠な社会インフラになりつつあり、ユーザの多様なニーズに迅速に応える柔軟性のあるサービスの提供が望まれています。また、コンピューティングとネットワークの融合が急速に進展し、コンピュータ・ネットワーク・ストレージ全ての資源を統合してダイナミックかつエラスティックに活用する利便性が注目を浴びつつあります。進化しつつあるネットワーク仮想化はそのようなインフラを実現する鍵の技術であり、カスタマイズした多様なネットワークの共存、最新機能の迅速な導入、資源の独立化により相互干渉しないプログラマブルなネットワーク、巨大化する情報通信システムの安定した運用管理、クラウドコンピューティングのネットワークへの伸展、及びセキュアなサービス基盤の提供が期待されています。そこで、多様なサービスネットワークを論理的に実現するネットワーク仮想化、及び新機能を迅速に導入するコンピューティングとネットワークの融合プラットフォーム技術等の研究開発を促進するため、本小特集 (2014 年 11 月号掲載) を企画致します。

1. 対象分野

ネットワーク仮想化及びコンピューティングとネットワークの融合プラットフォームに関する以下の分野を主な対象とします。

- ・多様なカスタマイズネットワークを実現するネットワーク仮想化アーキテクチャ
- ・ネットワーク仮想化をベースとした革新的アプリケーション

- ・ネットワーク・コンピューティングの融合
- ・マルチレイヤ統合制御、及びネットワーク仮想化運用管理技術
- ・ネットワーク仮想化におけるリソースモニタリング技術
- ・ネットワーク仮想化をベースとしたデータセンタネットワーク技術
- ・オペレーティングシステム・ネットワーク仮想化技術
- ・ソフトウェア・デファインド・ネットワーク技術
- ・ネットワーク機能仮想化技術
- ・ネットワーク仮想化、セキュアサービス提供におけるセキュリティ技術
- ・データセンターへの応用技術

これら上記技術に関連するテストベッド関連研究、実験成果等

2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。ページ数は、原則として、論文の場合は刷り上がり 8 ページを標準とします。標準ページ数を超えると、掲載別刷代が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は Information for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_cs.html) を御参照下さい。査読後の再提出期間 (通常は 60 日) を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

Web による電子投稿のみ受け付けます。以下の手順で御投稿下さい。

手順 1: https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx から登録を行って下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体 (TeX/Word)、図、著者の写真、biography も投稿する必要があります。なお登録時には必ず “Journal/Section” で Network Virtualization, and Fusion Platform of Computing and Networking を選択して下さい。[Regular-EB] を決して選択しないで下さい。

手順 2: 登録時に生成される “Copyright Transfer and Page Charge Agreement” と “Confirmation Sheet of Manuscript Registration” を、論文投稿締切日までに下記送付先へ電子メール添付、FAX のいずれかの方法でお送り下さい。これらの書類が期日までに届かない場合、投稿が取下げになることがあります。

4. 論文投稿締切日 2014 年 3 月 3 日 (月) 必着

5. 投稿書類送付先及び問合せ先

田上敦士

KDDI 研究所次世代通信アーキテクチャー G

〒356-8502 ふじみ野市大原 2 丁目 1 番 15 号

TEL [049] 278-7365, FAX [049] 278-7510

E-mail: nv+paper@mail.ieice.org

6. 小特集編集委員会

委員長 島野勝弘 (NTT)

幹事 田上敦士 (KDDI 研), 重野 寛 (慶大)

委員 会田雅樹 (首都大東京), 飯田勝吉 (東工大), 石原智宏 (富士通研), 工藤知宏 (産総研), 後藤滋樹 (早大), 寺岡文男 (慶大), 中内清秀 (NICT), 原井洋明 (NICT), 福井将樹 (NTT), 村田正幸 (阪大), C. K. Toh (清華大), Wolfgang Kellerer (ミュンヘン工大)

7. 付記

* 締切日を厳守して下さい。

* 論文採録の場合は掲載別刷代が必要となりますので、あらかじめ御了承下さい。

*投稿に際しては、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。http://www.ieice.org/jpn/nyukai/susume.html

——通信分野の新しい知・技を切り開く

ポジションペーパー小特集

(英文論文誌B) 論文募集——

通信分野の新しい知・技を切り開く ポジションペーパー小特集編集委員会

通信分野の発展はとどまるところを知らず、それを支える研究開発が日夜続けられています。過去には存在しなかった新しい技術が数多く提案されており、それに基づく新たな研究分野の開拓が更なる通信技術の発展につながっています。また、世界最高性能の実現を目指した研究開発も多く行われ、その成果が研究開発を更に活性化させています。本小特集では、そのような新しい技術の基となるアイデアをタイムリーに発表する場として、ポジションペーパーを募集致します。より優れたアイデア・成果に関する論文投稿を広く集めることを目的として、本小特集は、2回に分けて投稿の締切りを設定し、論文誌への掲載もそれに伴い2回に分けて行います(平成27年1月及び3月号掲載)。更に、本小特集に掲載された論文を広く世界に紹介することを目的として、全採択論文について以下のような紹介活動を行います。

- ・通信ソサイエティのGLOBAL NEWSLETTERに紹介文を掲載し世界に発信します。
- ・掲載論文は無償公開(会員外でも論文に無料でアクセス可能)とします。

1. 対象分野

本小特集は、英文論文誌Bがカバーする全技術分野(通信基礎、光ファイバ伝送、ネットワークング、アンテナ・伝搬、無線通信等)を対象とします。また、本小特集で募集するポジションペーパーは以下に示す特徴のいずれかを持つ論文と定義します。

- ・新しいものの見方、考え方、パラダイムなどを導入するもの。
- ・従来技術の改良を主体としたものではなく、革新的なアイデアに基づく技術や方式などを提案するもの。
- ・現時点では具体的な技術や方式などの提案には至っていないものの、革新的な技術に結び付くアイデアを含むもの。
- ・システムの試作や実験結果などの報告において、世界最高の数値的性能を実現したものや、これまでに存在しなかった新しい考え方に基づく試作など、特筆すべき特徴を備えたもの。

本小特集では、上記の特徴に関して極めて優れた論文のみを採録・掲載します。この条件を満たしていれば、完全かつ網羅的な有効性の評価がされていなくとも、「論文」として採録します。

2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。つまり、本小特集に掲載する論文は通常の論文査読基準により採否が判定されます。ただし、当論文誌の論文査読基準の範囲内で、新規性を強く重視し小特集への採否を判定します。ページ数は、本小特集の趣旨を考慮して、通常の論文標準ページ数(刷り上がり8ページ)よりも短い論文(4ページ程度)を想定しています。ただし、ページ数に制限はありません。なお、標準ページ数(8ページ)を超えると、

掲載別刷代が急に高くなりますので御注意下さい。詳細はInformation for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_cs.html)を御参照下さい。査読後の再提出期間(通常は60日)を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

Webによる電子投稿のみ受け付けます。以下の手順で御投稿下さい。

手順1: https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspxから登録を行って下さい。初期投稿時に、編集可能な論文本体(LaTeX/Word)、図、著者の写真、biographyも投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”でPosition Papers Exploring Innovative Intelligence and Technologies in Communicationsを選択して下さい。[Regular-EB]を決して選択しないで下さい。

手順2: 登録時に生成される“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”と“Confirmation Sheet of Manuscript Registration”を、論文投稿締切日までに下記送付先へ電子メール添付、FAXのいずれかの方法でお送り下さい。これらの書類が期日までに届かない場合、投稿が取下げになることがあります。

4. 論文投稿締切日

平成27年1月掲載分 平成26年4月1日(火)必着
平成27年3月掲載分 平成26年6月1日(日)必着

5. 投稿書類送付先及び問合せ先

林 和則
京都大学大学院情報学研究所
TEL & FAX (075) 753-5509
E-mail: positionpapers@sys.i.kyoto-u.ac.jp

6. 小特集編集委員会

委員長 岩井誠人(同志社大)
幹事 林 和則(京大)、松田崇弘(阪大)
委員 阿多信吾(阪市大)、井坂元彦(関西学院大)、梅原大祐(京都工繊大)、岡田 啓(名大)、笠原正治(奈良先端大)、塩田茂雄(千葉大)、菅原真司(千葉工大)、須山 聡(NTTドコモ)、橘 拓至(福井大)、長敬三(千葉工大)、蓑輪 正(NICT)、矢野一人(ATR)

7. 付記

- *締切日を厳守して下さい。
- *全ての採録論文について、LaTeXスタイルファイル利用の4ページ相当分(別刷50部)の掲載別刷代を無料とし、これを超える超過分について掲載別刷代が必要となります。
- *投稿に際しては、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。http://www.ieice.org/jpn/nyukai/susume.html

——マイクロ波・ミリ波技術の最前線小特集

(英文論文誌 C) 論文募集——

マイクロ波・ミリ波技術の最前線小特集編集委員会

マイクロ波・ミリ波技術は、モバイル通信サービスの更なる高度化、多様化やグローバル化を支える重要な役割を果たしています。また、医療応用、センシング、計測、電力伝送などの非通信領域においても、マイクロ波・ミリ波技術は目覚ましい広がりを見せています。更に、シミュレータに代表されるシミュレーション技術の開発及びその適用により、マイクロ波・ミリ波技術の応用を効果的に検証する試みがなされています。これらの最新の研究内容を網羅的に取り扱うことでマイクロ波・ミリ波技術の更なる進展に寄与することを目的として、本小特集（平成 26 年 10 月号）を企画しました。奮って御投稿下さるようお願い致します。

1. 対象分野

以下に示しますマイクロ波及びミリ波帯のトピックスが主な対象分野ですが、これらに限定するものではありません。

- ・受動素子、能動素子
- ・能動回路（発振器、通倍器、分周器、混合器、増幅器など）
- ・受動回路（フィルタ、共振器、ハイブリッド、メタマテリアルなど）
- ・ミリ波／マイクロ波センサ技術やイメージング技術
- ・マイクロ波電力伝送技術
- ・アンテナ及びその集積化技術
- ・マイクロ波フォトニクス
- ・シミュレーション技術
- ・IC 及び RF モジュール評価技術

2. 論文の執筆と取り扱い

通常の英文論文と同一とします。原則として刷り上がり PAPER 8 ページ、BRIEF PAPER 4 ページ以内（厳守）とします。詳細は Information for Authors (http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_es.html) を御参照下さい。査読後の再提出期間（通常は 60 日）を短縮する場合がありますので、あらかじめ御了承下さい。本小特集への論文投稿については下記を御参照下さい。

3. 投稿方法

査読作業の円滑化を図るため、本小特集では論文の電子投稿を行います。以下の手順で御投稿下さい。

手順 1: https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx から登録を行って下さい。なお登録時には必ず“Journal / Section”で、[Special-MM] Special Selection on Recent Progress in Microwave and Millimeter-wave Technologies を選択して下さい。[Regular-EC] を選択しないで下さい。

手順 2: 著作権譲渡承諾書 (Copyright Transfer and Page Charge Agreement) と仮登録確認用紙 (Confirmation Sheet of Manuscript Registration) を下記まで電子メール（推奨）あるいは FAX、郵便にて送付して下さい。これらの書類がないと査読が開始されません。

4. 論文投稿締切日 平成 26 年 2 月 14 日（金）必着

5. 問合せ先及び書類送付先

幹事 加屋野博幸
(株)東芝研究開発センター機能材料ラボラトリー
〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町 1
TEL [044] 549-2110, FAX [044] 520-1286
E-mail: hiroyuki.kayano@toshiba.co.jp

論文特集原稿募集

6. 小特集編集委員会

ゲストエディタ: 檜橋祥一 (NTT ドコモ)

幹事 加屋野博幸 (東芝)

委員 五十嵐一文 (日本無線), 内田浩光 (三菱電機), 大久保賢祐 (岡山県立大), 岡崎浩司 (NTT ドコモ), 加保貴奈 (NTT), 君島正幸 (アドバンテスト), 真田篤志 (山口大), 清水隆志 (宇都宮大), 武井 健 (日立), 田中 聡 (村田製作所), 西川健二郎 (鹿児島大), 藤島 実 (広島大), 馬 哲旺 (埼玉大)

7. 付記

* 論文採録の場合には掲載別刷が必要となりますので、あらかじめ御了承下さい。

* 投稿に際しては、著者のうち少なくとも 1 名は本会会員でなければなりません。ただし、招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けませんこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。
<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>

——多様化する学習・教育支援特集

(和文論文誌 D) 論文募集——

多様化する学習・教育支援特集編集委員会

近年、学習成果の質保証やグローバル人材の育成など、我が国の学習・教育観とそれに伴う課題は多様化しています。これと同時に、スマートデバイス、有線／無線高速通信網、センサネットワーク、ソーシャルメディア、ビッグデータといった電子情報通信技術の進歩・普及により、学習・教育支援も多様化しています。技術と適用対象の組合せが膨大になる中で、より重要な課題に取り組む新規性と有効性の高い学習・教育支援システムを開発・実践・評価すること、また、その基盤となる研究方法論や理論やモデルを構築・洗練することは、教育工学研究の学術的価値を高めるだけでなく、学習・教育に対する社会の期待に応える上でも重要です。

そこで、教育工学研究専門委員会では、学習・教育支援に関する研究成果を学際性豊かに受け入れて広く共有・議論するというポリシーの下、教育工学研究を一層促進させることを目的として、和文論文誌 D（平成 27 年 1 月号掲載）にて本特集を企画致しました。皆様からの積極的な御投稿を期待致します。

1. 対象分野

以下のようなテーマを含め、これらに限らず学習・教育支援に関連する論文を積極的に募集致します。

知的学習支援、協調学習、ソーシャルメディア、コミュニティ形成、コミュニケーション支援、学習科学、メタ認知、知識共創、学習評価、e ポートフォリオ、e テスティング、データサイエンス、スマートデバイス（スマートフォン、タブレット端末）、語学学習、スキル学習、プログラミング教育、医療・看護・介護教育、防災教育、遠隔教育、オープンエデュケーション、e ラーニング標準化、Learning Analytics、教育情報検索、学習コンテンツ管理、電子教科書、オーサリング支援、インストラクショナル・デザイン、オントロジー、セマンティック Web、ロボティクス、仮想／拡張現実感、シリアスゲーム など

2. 論文の執筆と取扱い

一般論文(システム開発論文を含む)及びレターを募集致します。原則として、論文は刷り上がり 8 ページ以内、レターは刷り上

がり2ページ以内とします。標準ページ数を超えると、掲載別刷代が急に高くなりますので御注意下さい。詳細は和文論文誌投稿のしおり http://www.ieice.org/jpn/shiori/iss_mokuji.html を御参照下さい。査読後の再提出期間（通常60日間）が短縮される場合があることをあらかじめ御了承下さい。

3. 投稿方法

投稿は、本会電子投稿システム (https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx) による電子投稿のみと致します。印刷物及びメールでの投稿は受け付けません。なお、上記 Web での登録の際、“ソサイエティ/特集選択”は“[特集ET] 多様化する学習・教育支援特集”を選択して下さい。“[一般JD] 情報・システム”やほかの特集を選択されませんよう御注意下さい。

仮登録後に作成される投稿者チェックリスト・著作権譲渡書を投稿締切日までに下記送付先へ電子メール添付、FAX、郵送のいずれかの方法でお送り下さい。これらの書類が期日までに届かない場合、投稿が取下げになることがあります。

【送付先】

〒105-0011 港区芝公園3-5-8 機械振興会館

一般社団法人電子情報通信学会編集出版部論文課

FAX [03] 3433-6616, E-mail: wabun-dl@ieice.org

※郵送時は、封筒に「多様化する学習・教育支援特集」を朱記して下さい。

4. 投稿締切 平成26年2月28日(金) 厳守

5. 問合せ先

赤倉貴子 (東京理科大)

E-mail: akakura@ms.kagu.tus.ac.jp

〒162-8601 新宿区神楽坂1-3

TEL [03] 5228-8356

光原弘幸 (徳島大)

E-mail: mituhara@is.tokushima-u.ac.jp

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1

TEL [088] 656-7497

6. 特集編集委員会

委員長 赤倉貴子 (東京理科大)

副委員長 小西達裕 (静岡大)

幹事 松原行宏 (広島市大), 光原弘幸 (徳島大)

委員 植野真臣 (電通大), 緒方広明 (九大), 柏原昭博 (電通大), 加藤 浩 (放送大), 國宗永佳 (信州大), 小尻智子 (関西大), 佐々木 整 (拓殖大), 佐藤和彦 (室蘭工大), 杉本雅則 (北大), 瀬田和久 (阪府大), 鷹岡 亮 (山口大), 竹内 章 (九工大), 東本崇仁 (東京理科大), 中村勝一 (福島大), 長谷川 忍 (北陸先端大), 林 敏浩 (香川大), 平嶋 宗 (広島大), 藤原康宏 (兵庫医科大), 堀口知也 (神戸大), 松居辰則 (早大), 松田憲幸 (和歌山大), 宮寺庸造 (学芸大), 室田真男 (東工大), 森本容介 (放送大)

7. 付記

* 締切日を厳守して下さい。

* 論文採録の場合は掲載別刷代が必要となりますので、あらかじめ御了承下さい。

* 投稿に際して、著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、受け付けませんこととなりますので御注意下さい。入会の案内はこちらを御覧下さい。

(<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>)

本会発行新刊案内

非線形システムは解析から設計・利用の時代に

非線形システムが社会を動かす

並木淳治 著

B5判並製 定価 3,150円(税込)

人間的日常の感情から、“ファッション、流行、流言飛語、パニック”などの発散的現象や、“起業、投資、マネージメント”などの実際の経済活動等、ほとんどの現象は100%人間の相互干渉性が作り出す現象である。要素間干渉を完全に排した線形システムでは表現不可能な非線形システムこそが、私たちを取り囲むほとんどの社会、経済、精神活動を説明・制御する源であるとの立場から、まずそのモデル化、解析手法について分かりやすく説明し、それらの現象の解析評価、そして特に設計・制御・利用を可能にする手法を提示し、一部はExcelプログラム添付で実感させることを試みた。社会システムに興味を持つ全読者へ、《内容目次》ダイナミックシステムのモデル化/線形システムの功罪(非線形システムとは)/超巨大システムの社会的安定の根源/古典的非線形システムを読み解く/これからの非線形システムはこう操れ/見え出した非線形飼いや慣らし手法/エージェント移動をつかさどる多次元セルオートマトンの提案

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内 振替口座 00120-0-35300

TEL [03] 3433-6691(代) FAX [03] 3433-6659 E-mail: kaiin@ieice.org

正員、学生員等の個人会員の方の注文を承ります。2割引・送本費500円 上記番号で御注文下さい。

一般社団法人 **電子情報通信学会**